

令和三年度 全日本中学生水の作文コンクール愛媛大会

同中央審査

奨励賞
佳作

「大切な水」

松山市立久米中学校 三年

あさい 浅井 かのん 花音

平成六年、西日本一帯で大渇水となり、愛媛県内各地で深刻な水不足になった。私の住んでいる松山市の年間降雨量約千三百ミリは、全国平均約千七百ミリに比べて少ない。降雨量の少ない松山市の生活用水を支えているのは、昭和三十年代当時の将来人口予想約三十七万人をもとに、昭和四十年代に建築された石手川ダムだ。現在五十万人を超える人口の松山市のダムとしては、とても脆弱である。約五十日分の水しかためることができない。水は飲むだけでなく、料理やお風呂にも使用する。トイレを使用した後にも、水を流す。今はコロナ禍によって、いつも以上に手洗いうがいをしている。水を使わない日はない。だから、雨が降らない日が続けば、あつという間に水不足に直面してしまう。

大渇水を経験し、松山市は常に節水を呼びかけ、市民が節水を意識している。そのおかげで、私は生まれてから今まで、水がなくて困ったことはない。とてもありがたいことなのに、蛇口をひねると水が出るのは当たり前だと私は思っていた。地球の七割は海。世界は百九十六か国。それなのに、蛇口をひねって安全な水が飲めるのは、たったの九か国だけだ。私が当たり前だと思っていたことは、当たり前ではなかった。人が生きていくには、水はなくてはならないものである。今まで以上に意識して、水を大切にすることがあると思っただ。

しかし、「節水」や「水質汚染防止」を掲げて水を大切にすることは、心がけていても難しい。手洗いうがいの時、水を流しっぱなしにしてしまうことがある。手洗いの間、水を三十秒流しっぱなしに

すると、約六リットルの水が流れる。ラーメンの残り汁をコップ一杯分排水口に流してしまつたら、魚の住めるきれいな水にするのに、約千リットルの水が必要になる。うっかりした行動を数値で見ると、私の想像を超える水の量に驚く。

水は循環しているから、いくらでも使っていていいという考えの人がいるかもしれない。しかし、水は各家庭や学校に届くまでに、いろいろな設備を通りポンプなどで送り出される。そして、その時には電気を使い、二酸化炭素などの温室効果ガスが排出される。よって、地球温暖化などの環境破壊が進んでしまう。「節水」は「節電」にもつながる。かつての日本の水質汚染の主な原因は、産業排水であった。工場や事業所からの排出された汚水がきっかけとなり、水俣病やイタイイタイ病など現在に続く公害病が発生し、重大な問題となった。そのため、産業排出に規制が敷かれ、排水処理技術も向上し、少しずつ改善されている。現在の日本の水質汚染の主な原因は、生活排水となっている。この生活排水に対する大きな対策は、まだ講じられていない。

「節水」や「水質汚染防止」のために、私たちでもできることはたくさんある。蛇口をこまめに閉める。食器を洗う前に汚れをふき取る。洗剤、シャンプー、リンスは適量を守る。雨水を花の水やりや洗車に有効活用する。小さなことではあるが、一人一人が意識して取り組むことにより、大きな力となる。

私の家には井戸がある。今は、飲み水には使用できないけれど、花の水やり、洗車、運動靴を洗うなどで使用している。道路工事の際に、井戸の水を活用してもらったこともあった。もし災害があったとき、我が家の井戸の水も力になれると思う。

先日、私は川を訪れた。水を見てみると心が落ち着き、おだやかになる。水を触ってみると、冷たくて気持ちがよかった。先人たちが守ってきた大切な水環境を、私たちが壊さないよう、私も出来ることから取り組もうと思った。そして、誰もが安心して水を使えるような世界になることを信じたい。